

LIGHTING FAIR 2019

3月5～8日
東京ビッグサイト

3月5日から開催していましたが第14回国際照明総合展「ライティング・フェア2019」は8日で閉幕しました。今回は「コレカライト あかりがつながる あしたが変わる」をテーマに国内外より170社を超える企業・団体の展示、専門家が出演するセミナー、テーマ展示などを通して照明の未来を発信しました。多くの皆様にご来場いただき、誠にありがとうございました。



あかり文化の向上と地球環境への貢献を目指す

照明成長戦略「Lighting Vision2030」5日に発表

LIGHTING FAIR

日本照明工業会は5日、2030年までの照明成長戦略「Lighting Vision (ライティングビジョン)2030」の詳細を、同日から東京・有明の東京ビッグサイトで開催される第14回国際照明総合展「ライティング・フェア2019」で初公開する。発表を前に同工業会の内閣府専門事務事に近い照明業界の課題などを聞いた。

—2020年までの照明業界の成長戦略「Lighting Vision (ライティングビジョン)2020」の進捗状況は

「2020年までに発光ダイオード(LED)など半導体照明(SSL)の占有率を、フロー(出荷台数)で100%、ストック(設置台数)で50%にそれぞれ引き上げる目標を掲げましたが、フローについては17年度末時点で97%超、今年3月末で98%を超える見通しで、20年を待たずに1年前倒しで目標を達成できそうです。LEDは02年ごろに市場に登場しましたが、普及し始めたのは09年ごろなのでちょうど丸10年でほぼ100%を達成しました。この普及スピードは世界最速といっていると思います」

—ストックはいかがですか

「現在は30%から40%の間ぐらいで、60~70%はまだ蛍光灯などの既存の照明器具と推定しています。10年ごろが10%程度だったので、フロー同様この10年ぐらいで大幅に数値が伸びました。20年

には50%にかなり近づいて目標をほぼクリアできるとみています」

—普及が遅いテンポで進んだ要因は

「いろいろな要因がありますが、まず2000年以降に政府が国策として省エネを呼びかけたことで、国民の省エネ意識が高まったことが背景にあると思います。加えて、11年の東日本大震災によって原子力発電所が停止し、省エネ意識がさらに高まったことも大きい。不幸な出来事でしたが、LEDの普及にインパクトがあったのは事実です。それと、LEDの効率が飛躍的に高まったことも見逃せません。LEDチップの技術的な進歩によって、1㎡あたりの光の量が我々の予想を上回るペースで増加しました。また、LED照明に参入する企業が増え、競争激化によって価格が大幅に下がったことも普及の大きな要因の一つになったと捉えています」

—照明業界の次の10年を見据えた照明成長戦略「Lighting Vision2030」の詳細を5日に発表されます

「まず前提条件として、SSLのフローがほぼ100%を達成したことを蓋すると、LEDのパラダイムシフトは終わったといっていると思います。LEDはこの10年間で完全にコモディティ商品になったと認識しています。今後はこれまでの右肩上がりの伸びが鈍化することは避けられず、これをどう克服するかが大きなテーマになります。今後は人口減少やそれに伴う住宅着工の減少、単価下落による収益悪化といったネガティブな要素とどう向き合っていくかが問われていると思います」

—「Lighting Vision2030」



日本照明工業会専務理事 内橋聖明氏

のアウトラインを教えてください

「あかり文化の向上と地球環境への貢献」がビジョンです。地球環境への貢献では、政府が目標に掲げている「LEDなど高効率照明を30年までにストックで100%を目指す内容になります。政府の地球温暖化対策計画では30年度に13年度比26%減の大幅な温室効果ガス削減を目指していますが、ストック100%を実現すると80%の照明消費電力削減を実現できることになり、地球温暖化対策計画に大きく貢献できると考えています」

「キーワードは「Connected Smart Lighting (CSL、コネクティッドスマートライティング) & Human Centric Lighting (HCL、ヒューマンセントリックライティング)」です。わかりやすく言いますと「さまざまなモノ、コトにつながる多機能照明と人にやさしい、安全・快適・便利なあかり」の普及を目指します。HCLという言葉は、以前からあつた用語で、光の色や量、波長などを制御することにより、快適な空間の提供や生体リズムを整えるといった製品も紹介されてきましたが、既存の蛍光灯では、光の制御が難しく、価格も比較的高

かったこともあり、普及には至りませんでした。しかし、LED光源は、蛍光灯に比べて、光の制御が容易で、しかも安く実現できるようになったことから、HCLの普及を加速させていきたいと考えています。このHCLを、つながるソリューションであるCSLと結びつけることで、次の10年に向けた更なる付加価値を創造し、照明業界の発展を目指すことを考えています」

—これからの10年が大切になりますね

「これからの10年はこれまでの10年に比べてスピードがすごく早まると予想しています。「Lighting Vision2030」は向こう10年間の成長戦略ですが、例えば3年後、5年後には適宜見直しをすることも視野に入れています。例えば、キーワードとして触れたコネクティッドにしても、技術の進歩が予想を上回るスピードで進み、2、3年後には特別な技術ではなく、汎用の技術になってコネクティッドという言葉さえ使われなくなる可能性もあると考えています。時代の流れを先読みしながら、フレキシブルに対応していきたいと思っています」

■一般照明用器具 世界市場出荷動向予測

(注)日本照明工業会が主催する「ライティング・フェア」の調査結果に基づく予測

2013年 照明器具市場 5.6兆円



2020年(予測) 照明器具市場 9.5兆円



■一般照明用器具 日本市場出荷動向予測

(注)日本照明工業会が主催する「ライティング・フェア」の調査結果に基づく予測

2013年 照明器具市場



2020年(予測) 照明器具市場



第14回国際照明総合展

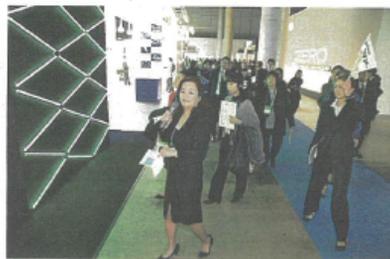
「ライティング・フェア2019」5日から開幕

日本照明工業会からは第14回国際照明総合展「ライティング・フェア2019」が東京・有明の東京ビッグサイトで3月5日(火)から8日(金)までの4日間開催される。今回のテーマは「コレカライト あかりがつながる あしたが変わる」で、国内外の有力照明メーカー170社が計545小間を出展する。

アトリウムのステージでは開催記念セミナーとして、あかりの未来をさまざまな分野の専門家が語るプログラムが多数予定されている。日本照明工業会の道浦正治会長から照明業界の成長戦略を示す「Lighting Vision2030」が初公開されるほか、日建設計設備

計グループ技師長の海宝幸一氏が「ひとにやさしい建築空間を実現するためにあかりに期待すること」のテーマで講演する。また、調査会社3社による「有力調査会社が語る。国内外のこれからの照明市場動向予測」も予定されている。

会場内では「つながるあかり」をテーマに異業種、異分野から「照明とつながる」製品のソリューション、サービスのデモンストレーション、パネル展示やミニセミナーなどを「コレカライトスタジオ」で実施する。このほか、著名照明デザイナーがガイドになって会場内の見所を案内する「コレカライ



昨年開催された第13回国際照明総合展「ライティング・フェア2018」

ト探検ツアー」、照明デザイナーとオープンルーフバスと水上バスで東京の夜景を巡る会場外ツアーなど豊富なメニューを用意。日本照明工業会もブースを出展し、「Lighting Vision2030」やエリア防災のあかりなどを紹介展示する。

同工業会では業種・業界を超えた連携を生み出し、「あかり」の本質を見据えた新しい市場を創造する照明総合展を目指すとしている。詳細は日本照明工業会ホームページ (<https://www.ilma.or.jp/>) へ。

小
L
F
岩
は効
コン
明制
用照
と、
合。
天井
い「
照
示。
主
して
D非
カラ
「レ
に対
セン
でカ
当の
コア
など
実
……
岩崎
千103
電話
https
「
「
小
L
F
マは
1
IC L
い照
えた
だ。
2
y)の
シス
ンプ
する。
ブ
験する
KN
ンや
など
さ
今回
実現
LE
たな
来」を
……
ブ
107
電話

「ライティング・フェア2019」の主な出展内容

照明業界ではLED照明の高機能化、高付加価値化が進み、あかりという枠を大きく超えて新たな市場を創り出そうとしている。今後は、異分野・異業種と「つながる」ことで照明業界全体が大きく活性化してい

くという観点から、国内外より170社の関連団体・企業の展示をはじめ、照明製品やソリューション、サービスを集めたテーマ展示、専門家セミナーや照明デザイナーによるツアー企画などが行われる。

さまざまなシーン・用途の照明を展示

小間番号
L F 2026

岩崎電気株式会社

岩崎電気ブースは「LEDは効率から最道の時代へ」をコンセプトに屋内外施設の照明制御システム、工場・倉庫用照明、工事現場用照明など、さまざまなシーン・用途に合わせた照明を展示している。照明制御・防塵照明・高天井照明・工事用照明の新しい「カタチ」を提案する。



照明制御によるデモンストレーションの他、防塵照明の幅広いラインアップを展示。建設現場において今後必要とされる非常用照明設備をブース内に再現した。

主な展示商品は、停電時に内蔵蓄電池で点灯する「非常用照明部」と通常の照明として点灯する「常用照明部」を一体化した防塵形LED器具「レディオック防塵形LED非常用照明器具」、工事現場用LED照明器具の「レディオックプロワークス」、カラーコントローラとの組み合わせで多彩な色を再現し光演出ができるLED投光器「レディオックフラッドフルカラー」、工場・倉庫に求められるさまざまな要件に対応するLED高天井照明「レディオックハイバイシート（DALI対応形、人感センサー形・高温対応形）」シリーズ、デザイン性に優れた光害対策も多彩なオプションでカバーするLED街路灯「トリカエール」、電源ユニット内蔵形水銀ランプ100W相当の明るさのLEDランプ「LEDライトバルブK」、IoT照明コントローラ「リンクコア」、4K/8K放送に対応するLED投光器「レディオックフラッドゼスト」などを展示する。

実際に「見て・触れて・感じていただく」体験型の展示となっている。

岩崎電気株式会社 国内事業推進部
〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-4-16 馬喰町第一ビルディング
電話 03・5847・8623
<https://www.iwasaki.co.jp/NEWS/event/2019/lightingfair.html>

住宅用照明や非住宅用照明の新製品を紹介

小間番号
L F 1034

パナソニック株式会社

パナソニックブースは「オフィスの集中作業スペース」と「オープンコミュニケーションルーム」の設計手法や実例を映像と実空間によって体験ができるスペースだ。LED照明を中心に「音」「映像」「空調」設備を活用した空間設計のほか、住宅用照明や非住宅用照明の新製品を紹介する。



主な出展商品は、調光型LED照明器具の導入時に必要な信号線の配線工事が不要で器具の取り替えだけで調光が可能な「PiPi調光シリーズ」、店舗空間にシンプルでスタイリッシュなデザインを兼ね備えたスポットライト「TOLSOシリーズ」、スマートなフォルムやフレキシブルな構造で独自の機能を合わせ持つスポットライト型プロジェクター「スペースプレーヤー」、商材を明るく照らし棚下照明にも最適なコンパクト設計の建築化照明器具「C-SlimS」、スポーツ施設、建物のライトアップ、広場・駐車場等のHIDランプからの置き換えが可能な「LED投光器」、大型ドーム・体育館、工場、倉庫などの明るさを確保する天井高さ8m以上の天井に取り付ける照明器具で「LED高天井用照明器具」。住宅用のダウンライトにスピーカーを内蔵した「スピーカー付ダウンライト」やLEDフルカラー投光器「ダイナセルファー」など。

オフィス、店舗、屋外、演出用、住宅向け照明器具や照明提案ツールなど、リニューアルにも配慮したパナソニック独自の技術を生かした商品を展示する。

パナソニック株式会社 エコソリューションズ社
〒571-8686 大阪府門真市門真1048
電話 06・6908・1131
<https://news.panasonic.com/jp/topics/164889.html>

「HUMAN CENTRIC LIGHTING」と「Smart Connectivity」

小間番号
L F 1031

プライム・スター株式会社

プライム・スターのブースのテーマは2つ。

1つ目は、「HUMAN CENTRIC LIGHTING」という人に優しい照明で、その内容は、眩しさを抑えた目に優しい「Reachシリーズ」だ。

2つ目の、「Smart Connectivity」の内容は、DALIを使った調光システム、及びKNXというオープンプロトコルの制御システムを提案する。

ブース内では、実際にKNXを体験するエリアも用意した。

KNXを利用することで、エアロやセキュリティシステム・DMXなどさまざまなものを「灯り」を中心につなげることが可能になる。

今回のLIGHTING FAIR2019のテーマ「あかりがつながる、あしが変わる」を実現させていく。

LED照明は高機能化、高付加価値化が進み、「灯り」という枠を大きく超えて新たな市場を創り出そうとしている。そのひとつである「スマートビルディングの到来」を少しでも肌で感じるような展示ブースになっている。

プライム・スター株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂4丁目8番14号赤坂坂東ビルディング
電話 03・6969・6606

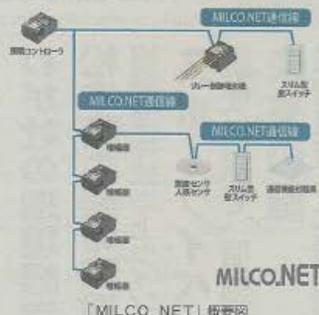
新たな機能、手法をプラスした製品・技術

小間番号
L F 1048

三菱電機照明株式会社

三菱電機照明は、「人と社会に寄りそう光へ。」をコンセプトに環境への配慮と空間の心地よさ、技術革新による進化を追求したLED照明「MILIE」を各種開発、販売している。「ライティング・フェア2019」において当社ブースでは、これまでの照明技術を活かしつつ新たな機能、手法をプラスした製品・技術を「MILIE+」として各種ご提案する。当社は、効率かつ快適な照明環境を実現

する照明制御分野の開発にも注力しており、昨年ネットワーク照明制御システムをモデルチェンジ、「MILCO.NET」として販売している。「MILCO.NET」は、小規模から大規模に至る各種施設においてフレキシブルに照明を制御、分散・集中管理が可能なシステムである。第1の特長は、通信線を1種類に統合し、施工性を向上。第2にデマンド制御や各種センサ機能などにより効率的な照明システムの構築が可能。第3に一括動作が大幅にスピードアップ（器具個別制御）、画像センサ機能、色温度操作による快適な照明環境の実現。第4に万が一のシステムダウン時においてもリレー端末器のスイッチ操作で照明の点灯/消灯が可能なフェールセーフ機能を搭載（リレー制御）。BCPにも対応、防災システムなど他設備との連携も可能。当社は今後も快適かつ効率的な光環境を実現する照明ソリューションを提案していく。



三菱電機照明株式会社
〒247-0056 神奈川県鎌倉市大船2-14-40
電話 0467・41・2964

Smart Connectivity

スマート制御

HUMAN
CENTRIC
LIGHTING

生体リズムを意識した調色・調光で
人の健康をサポートする照明システム

DALI Digital Addressable Lighting Interface



今回はKNXをご紹介させていただきました。

KNXは住宅、ビルオートメーションの世界標準です。

1. KNXはISO/IEC14543-3として採択された住宅、ビル用オープンスタンダードです。
2. 発祥の欧州ではすでに支配的な技術ですが、世界各地に広まりつつあります。
3. ツィストペア、IP、無線やPLCなどの伝送メディアをサポートし、各種ニーズに対応します。
4. 安心、効率的で、経済的な通信技術と分散処理に基づく制御方式を採用しています。



